

# SLOW COMMUNICATION PROJECT

スローコミュニケーションプロジェクト

詳しい情報はこちらからご覧ください ▶▶▶



この冊子は公益財団法人キリン福祉財団  
「令和3年度 キリン・地域のちから応援事業」の助成を受け作成しました。

# SLOW COMMUNICATION PROJECT



スローコミュニケーションプロジェクト  
[www.slowcommunication.jp](http://www.slowcommunication.jp)

一般社団法人4Hearts

# はじめよう、スローコミュニケーションあふれるまちづくり

みち まよ                      なんと き かえ  
道に迷ったおばあちゃんに何度も聞き返され、  
いそ                      ことわ  
「急いでいるから」と断ってしまった。

スーパーのレジ待ち中、

ひつだん                      ひと                      すがた  
筆談でやりとりしている人の姿に、ついイライラ。

じてんしゃ                      まえ                      はし                      ひと                      よび                      りん                      な                      き  
自転車で前を走る人に呼び鈴を鳴らしても気づいてもらえず、  
むりやり                      お                      ぬ  
無理やり追い抜いた。

けいけん                      だれ  
そんな経験、誰にでもあるのではないのでしょうか。

やくそく                      じかん                      せま  
約束の時間が迫っていたり、

いや                      あと                      たいちよう                      わる  
嫌なことがあった後だったり、体調が悪かったり、

とき                      なに                      じじょう  
その時のあなたには、何か事情があったはず。

でもそこで想像してほしいのは、

あいて                      じじょう                      きも  
相手にとっての「事情」や「気持ち」。

あいて                      ちが                      かわ  
相手はきこえない、またはきこえにくい方だったかもしれません。

ためらいながらも、ゆうき                      も                      たす                      もと  
勇気を持ってあなたに助けを求めたのかもしれません。

あいて                      たちば                      そうぞう  
相手の立場を想像する「こころのゆとり」があれば、

ひと                      ひと                      あいだ                      はぐく  
ひととひとの間にあたたかなつながりが育まれ、

だれ                      い  
誰もが生きやすいまちになるのではないのでしょうか。

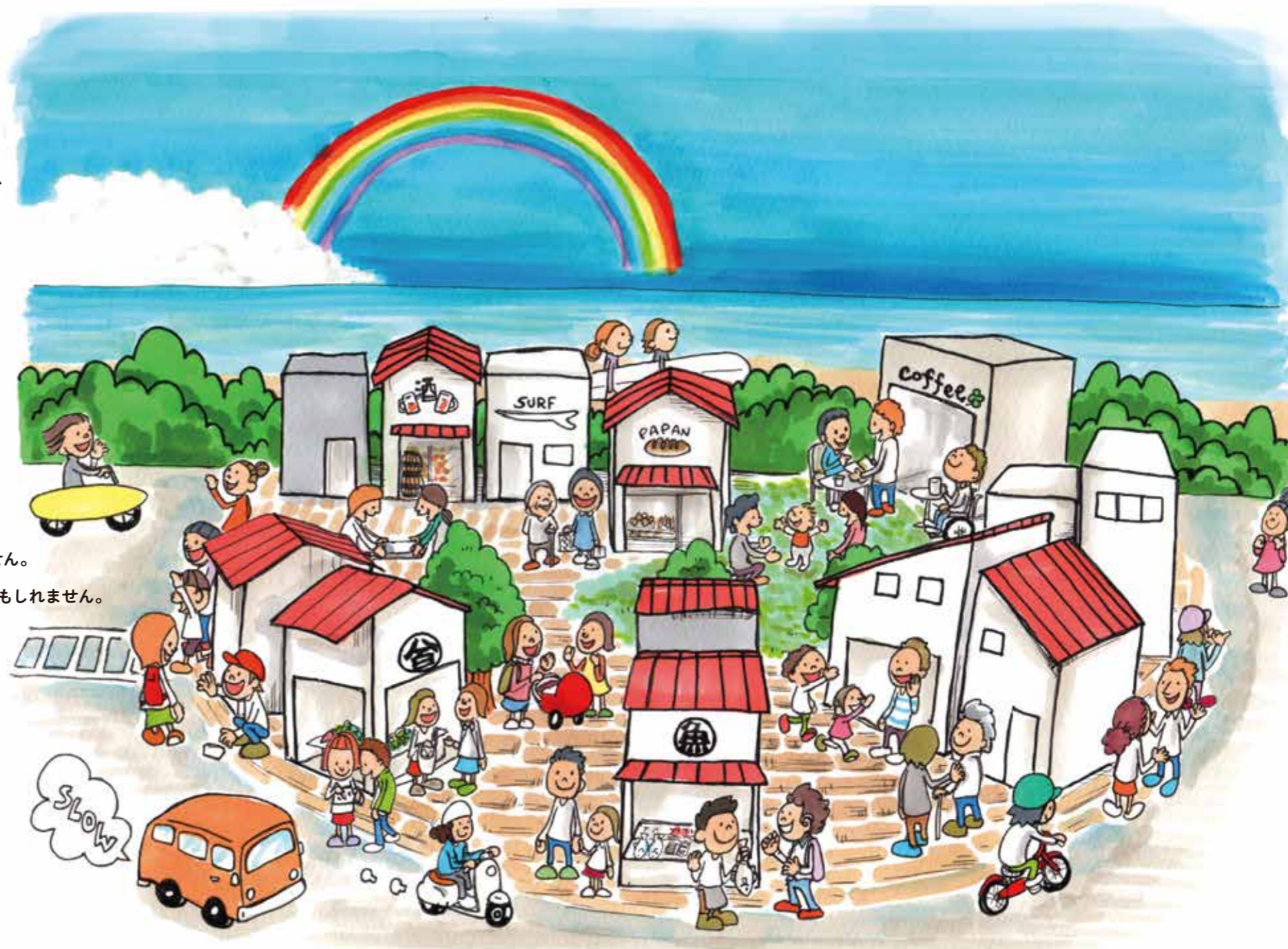
そんなひと・まち・コミュニケーションデザインのことを、

わたし                      な  
私たちは「スローコミュニケーション」と名づけました。

スローとは「こころのゆとり」のこと。

きこえない人、きこえにくい人だけじゃなく、

すべての人の“伝えたい”を大切にしたいまちづくり。



め                      まえ                      ひと                      たいせつ  
まずは目の前の人を大切にすることから、はじめてみませんか？

想像してみよう!

# <きこえない>世界って？ 暮らしの中の“音”によるコミュニケーション



インターホン、家電のお知らせ音、お湯はりメロディ……家の周りにも“音”はたくさん。笑い話では済まされない、身の危険に直結するものもあります。例えば災害時、避難指示等で活用される町内アナウンス。携帯電話から鳴り出したたましいアラート音もきこえません。一昔前なら、近隣住民が声をかけてくれる、なんてこともあったかもしれません。しかし今ではお隣さんすらわからないことも……。



例えば、性能を比較してじっくり選びたい電化製品、大切な人への手土産や迷った洋服の色、値引き交渉(?! )……「今日のおススメはコレ!」など店員さんとお喋りしながら買い物する楽しみもあるので。そんなとき、“声”しか手段がなかったら、どうやってその楽しさを味わえるのでしょうか? “音”のエンタメで考えると、字幕のない邦画も同じくです。

何気ない日常の中で、私たちは気づかぬうちにたくさんの“音”によるコミュニケーションを行っています。“音のみ”で考えると、電話はその最たるもの。そのほかにも、学校や職場での団らん、呼び出し音、危険を知らせるアナウンスやアラート音……もし、これらの場面で声や音がきこえなかったら?

それぞれのシーンにある困りごとを解決するにはどうしたらいいのでしょうか?



自転車走行中、前を歩く人にベルで危険を知らせる。それでも避ける気配がなかったら、どう感じますか? 「こっちは知らせているのに! (怒)」と、相手の過失と決めつけて舌打ちしたくなるかもしれません。ただ、もし前を歩くその人が、きこえない人だったら? 単純に、ベルの音がきこえなかったのかもしれない。



毎日のように訪れるスーパーやコンビニ。何気なく行っているレジでのやりとりも、意識してみると、「袋・お箸は要りますか?」「お弁当は温めますか?」「支払い方法は?」「ポイントカードはお持ちですか?」etc……多くのコミュニケーションが行なわれています。きこえない人の中には、手順が煩雑そうなところは利用を避けるという人もいます。

MEMO

MEMO

MEMO

MEMO

あせらず、いそがず、ゆっくりと。

## 〈スローコミュニケーション〉って どうして必要なの？

「聴覚障害」は、実は私たちのとても身近にあります。まずは日本、そしてこの茅ヶ崎市ではどのくらいの人たちが「きこえづらさ」を感じているのか、その実態をデータでみていきます。

日本の難聴者数

茅ヶ崎市に換算すると

推計約**1,430**万人

全人口の**11.3%** ※1

約**2万7千人** ※2

「聴覚障害」と一口にいても、生まれつききこえない人ばかりではありません。加齢や病気、精神的ストレスなど何らかの原因により聴力を失うことがあります。難聴や聴覚障害は誰にでも起こり得る身近なことで

難聴者に占める  
補聴器使用率

**14.4%** ※3

聴覚障害は、例えば車いすや白杖のように一目でそれと判別できる障害ではありません。補聴器をつけることが恥ずかしい、目立ちたくない……そんな人も多く存在します。あなたが今日何気なくすれ違った人、オーダーをとったお客さんも、実は「きこえづらさ」を抱えている人だったかもしれません。

※1「JapanTrak2018 調査報告」（一般社団法人日本補聴器工業会）より。自己申告によるアンケート調査 ※2 2022年2月時点で推定される茅ヶ崎市人口をもとに計算したもの  
※3「JapanTrak 2018 調査報告」（一般社団法人日本補聴器工業会）より。 ※4「平成28年生活のしづらさなどに関する調査（全国在宅障害児・者等実態調査）」より ※5平成28年度「CM番組への字幕付与に係る評価、効果等に関する調査研究」より ※6 難聴の程度はデシベル（dB）で表されます。一般的に、平均聴力レベルが25dB以下で正常耳、それを超えると難聴と判定され、さらにその値が40dBを超えると補聴器が必要となり日常生活で支障が出はじめると言われてます ※7 国立研究開発法人 国立長寿医療研究センター調査より

身体障害者手帳の保有者

**1,000人に3人**

一方で、聴覚・言語障害に関する身体障害者手帳を保有している人は約34万人（※4）で全人口の0.3%程度。1,000人に3人しか、公的には“聴覚障害者”とは認められていません。何らかの困難を抱えながらも、社会に溶け込み生活している人が多くいることがわかります。

聞き取りに不安を持っている人

**3人に1人**

小さな声や騒音下での会話の際に、聞き間違いや聞き取りが困難だと感じる人がいる人は、全国で33.6%（※5）、また、日常生活で支障が出るレベル（※6）の難聴者は、70歳代男性で5人に1人、女性で10人に1人（※7）と推測されています。

＼茅ヶ崎から全国へ／

## スローライフ、スローフードに スローコミュニケーションを加えたまちづくり

きこえづらさを感じているのに、「迷惑では？」と思い筆談を言い出せない、相手を待たせたくないから“わかったフリ”をしてしまう……「～してもらって申し訳ない」という負い目からコミュニケーションを必要とする場を避け、社会的に孤立してしまう人も多くいます。

だからこそ、まずはそれぞれが抱える困りごとを言い出しやすいまちづくりを。そして、当事者自身も、「相手の理解を待つ」だけでなく、一歩踏み出し、自分の気持ちや要望を言葉で伝えることを諦めないこと。

互いに互いを想像しあい、存在を認め合う文化・社会。そこに必要なのが、時間や周囲の目を気にすることなく、目の前の人の“伝えたい”に真摯に耳を傾ける「スロー」なコミュニケーションだと私たちは考えます。これにより、困難を抱える人の心、まちの人の心にも、小さなゆとりが生まれ、まち全体が安心・安全の場所になっていく。そんな第一歩になるのが〈スローコミュニケーションプロジェクト〉です。

# “想像しあう”スローコミュニケーション 実現のためのステップ



## 5つの柱

スローコミュニケーションあふれるまちづくりのため  
以下の5つを柱として活動しています。

### 1. Magazine

2020/5～

スローコミュニケーションマガジン  
みみとこころのポータルサイト

<https://4hearts.net>

みみこ



聴覚障害者やその家族、職場など周囲の人たちの「ひと」にスポットを当てたマガジンです。聴覚障害の分類やコミュニケーション手段等の基礎情報から、デフアスリート等聴覚障害を持つ方々のインタビューやコラム、エッセイなどで、その人の生き様を見つめます。(茅ヶ崎市民活動げんき基金：市民自治推進課)

### 2. Dialogue

2020/10～

スローコミュニケーションダイアローグ  
みみここカフェ



きこえない・きこえにくい等、何かしらの理由から生きづらさを抱える人たちが安心して困りごとを話せる場としてスタートした対話型イベントです。10名程度の少人数で行なう本イベントには、回を重ねるごとに聴覚だけではなく、視覚や身体に障害を持つ方、LGBTQの方などあらゆる生きづらさを抱える人たちが参加しています。まずは自分の気持ちや自身のことを言葉にして伝える。「哲学対話」をベースに、安心・安全の場づくりから丁寧に組み立てています。(茅ヶ崎市後援事業：障がい福祉課)

※当イベントはNHK『ろうを生きる 難聴を生きる 気持ちを言葉に～聴覚障害者への心理支援～』でも紹介されました。

### 3. Labo

2021/4～

スローコミュニケーションラボ  
神奈川大学共同研究



県からの依頼を受け、「ともに生きる社会かながわ憲章」の普及啓発プロジェクトのひとつとして、神奈川大学 人間工学研究室との共同研究を行なっています。主な研究内容は、聴覚障害者のコミュニケーションバリアの実証ならびに支援ツール制作。2021年12月には、スズキヤ鶴沼店にて、学生たちが「きこえない」状態での買い物を実証実験を行い、2021年人間工学会関東大会奨励賞を受賞しました。また、茅ヶ崎・雄三通りを『スローコミュニケーションストリート』にするプロジェクトを推進しており、茅ヶ崎発のアイス店「プレんティーズ」(指差しメニューの設置等店頭オペレーションの改善提案)や、昭和34年創業の老舗「つちや商店」とのプロジェクトが進んでいます。将来的には、盲導犬マークや身障者マークと同様に店舗に掲げられる『スローコミュニケーションマーク』の制作を目指しています。

## 4.Training

2020/8～

スローコミュニケーショントレーニング  
聴覚障害体験研修



4 Hearts代表で産業カウンセラーの那須かおりによる聴覚障害への理解を深める講演（小学校での実績あり）や企業ワークショップ、スーパーや飲食店等サービス提供企業への聴覚障害者に対する接客・オペレーション改善研修などを提供します。

聴覚障害者を雇用中または雇用予定の企業に向けては、従業員の障害への理解促進から就労後のコミュニケーション補助ツール導入、個人のフォローまで、ハード面・ソフト面からサポートします。詳しくは、インフォメーションページ（P19）にてご確認ください。また、2022年度からは、子ども事業を本格的にスタートし、長期的な“人づくり”にも取り組みます。子どもの目線をまちにプラスすることで「みんなが住みやすいまちづくり」を目指すと同時に、幼少期から障害者を含むあらゆる人たちに接することで、マイノリティへの先入観や偏見を持たない人・心を育てていきます。

## 5.Base Place

Comming Soon

スローコミュニケーションベース  
多機能発信拠点



スローコミュニケーションの発信拠点として、コミュニケーション支援ツールを使っている人たちとふれ合いながら実際に体験できるショールーム、聴覚障害者の就労前後の心理サポート、まちのこころの保健室など複数の機能を備えた拠点の展開を構想しています。その前身・実験的試みとして、2021年6月より「チャレンジキッチン」を開始。『小皿bar Suya』（茅ヶ崎市幸町）をお借りし、毎週月曜日のランチタイムにオープンしています。

### スローコミュニケーションベース機能（予定）

気軽に愚痴れる&相談できる  
まちのこころの保健室

ひとりの夢をみんなで応援！  
ピッチプレスト

音声認識などのツールを体験  
ショールーム

コワーキング

カフェBAR

オーナー棚

ワークショップ&セミナー

## 4Hearts 対話イベントの お知らせ！

4 Heartsでは、以下イベントを定期開催しています。  
きこえない・きこえにくい方やそのご家族、活動に興味のある方、  
一緒に対話（ダイアログ）イベントに参加してみませんか。ぜひお気軽にお越しください。

### スローコミュニケーションダイアログ 「みみここカフェ」

2020年10月より、2か月に一度（偶数月）（オンライン/オフライン）  
開催日は4 Hearts公式サイトにてご確認ください。



詳しくはこちら▶



【関連企業】4Heartsの活動においては、以下の企業・団体のみなさまに応援・ご協力をいただいています。

一般社団法人結ライフコミュニケーション研究所/NPO法人ETIC./NPO法人湘南スタイル/NPO法人セカンドワーク協会/花王株式会社/株式会社Sigfoss/株式会社be/株式会社ボンド/株式会社メディア・ケイフォルム/株式会社リコー TRIBUS推進室 Pekoeチーム/公益財団法人キリン福祉財団/合同会社エムシースクエア/コワーキングスペースチガラボ/茅ヶ崎青年会議所/茅ヶ崎市聴覚障害者協会/茅ヶ崎市手話通訳者連絡会/茅ヶ崎市要約筆記者連絡会/認定NPO法人NPOサポートちがさき/ピクシーダストテクノロジーズ株式会社（敬称略・50音順）

# Report

## 目指せ！ スローコミュニケーションタウン

実証実験を経て段々と形が見え始めている雄三通りのスローコミュニケーションストリート構想。将来的には、雄三通りだけではなく、茅ヶ崎市、そして全国、世界の様々な場所に、スローコミュニケーションが広がっていくことを描いています。まずは茅ヶ崎をスローコミュニケーションのモデルタウンに。進みつつあるプロジェクトから、「つちや商店」の事例を紹介します。本プロジェクトは、神奈川大学工学部経営工学科人間工学研究室との共同研究として2022年度から本格始動します。

昭和34年創業、日本酒・焼酎・ワインなどの美味しいお酒とおつまみを販売する『つちや商店』は茅ヶ崎駅から徒歩3分のところにあります。二代目店主の土屋哲雄さんは、お喋りが大好き。冗談も交えながらお客さんと会話を楽しむ接客スタイルが特徴で、つちや商店は地元根付く酒屋として人気を集めていました。しかし、2022年、哲雄さんは咽頭がんにより声を失ってしまいます。意気消沈するご主人を見て立ち上がったのが奥様の久美子さん。なんとか以前のように、来店客とのコミュニケーションを取れるようにならないか——そこで始まったのが、今回のプロジェクトです。

導入するのは、『指伝話』というiPadやiPhoneで使えるコミュニケーションアプリ。想定されるフレーズや言葉を事前に登録しておき、状況に応じて適した言葉をタップするだけで、合成音声でそれを読み上げ、声によるコミュニケーションが可能になります。



つちや商店



(左から) 那須かおり (一般社団法人4Hearts代表)、土屋哲雄さん、土屋久美子さん、高橋宜盟氏

2月上旬、『指伝話』の高橋宜盟氏と共に、つちや商店を訪れました。お酒やおつまみがずらりと並ぶお洒落な店内。入り口には、2021年5月にオープンしたという小さな角うちスペースが設けられており、コミュニケーション好きというご主人のこだわりが見える店構えです。出迎えてくれたのは、土屋ご夫妻。まずは指伝話の基本機能について、高橋氏から実演と共に説明が行われました。

普段、自身の講演会でも日常的に指伝話を活用しているという高橋氏。「後ろを向いているお客さんにも声を掛けられるのがメリットですね」「外国語を使ったり(“Bonjour”“你好”など様々な国の「こんにちは」を流す高橋氏)、音声スピードを変えることもできるんです。笑いを取りたい時に僕がよくやる手です、テッパンですよ!(笑)」「お店で使用する場合には、おススメのお酒や飲み方を事前に登録しておいて……」など、「冗談好き」という哲雄さんのパーソナリティもくみ取り、具体例を挙げながら接客時の使用イメージを伝えていきます。



真剣な眼差しで説明に聴き入る哲雄さんと久美子さん。哲雄さんは、日常的には筆談を行なっていますが、電動式人工喉頭（=人工的に喉に振動を生み出す発声補助器具）を使用し、声を出すことは可能です。しかし、「喉に機械を当て、声を出す」という見慣れない発話方法を笑われてしまったことがあり、それ以来すっかり接客での会話は控えているといいます。

「冗談を言うのも大好きだったのに、ある日突然、その“ふつう”がなくなって、精神的に落ち込んでしまったところもあるみたい」と、身近で支えてきた久美子さんからの一言。「本人の感覚は本人にしかわからない」と笑いながらも、長年、コミュニケーション大好きなその姿を見てきたからこそ、この先何十年と生きていく中で喋れないことが哲雄さんにとってどれだけの精神的負荷になるのか——その計り知れない大きさに不安ややるせなさを窺わせながらも、「不便は解消されますから」という高橋氏の心強い言葉に、しっかりと頷いていました。



2月下旬には、神奈川大学人間工学研究室の学生二名が実際につちや商店を訪れ、店頭の様子をヒアリング。どのような形が実現できれば良いのか、すり合わせていきました。お酒一つひとつを丁寧に解説した「メニュー表」を使って「情報伝達」をしたいのではない、と表情を曇らせた土屋ご夫妻。お客様一人ひとりに合わせた「コミュニケーション」でお酒の楽しさ・素晴らしさを伝えるにはどうすればよいだろうか。

「コミュニケーションは“キャッチボール”だけではなく“その瞬間を誰もが共有できるあたたかな場づくり”でもあります。」と言うのは、4Hearts代表の那須かおり。情報を共有するだけなら、後から伝達すれば目的は叶う。しかし、それでは〈スローコミュニケーション〉が目指す本質にはたどり着かない。同じ瞬間に笑ったり、泣いたりできる。相手とその場・その時を共有していること。これが重要だと話します。



プロジェクト本格始動の2022年4月に向けて、向き合う課題が改めて明確化されました。





2019年9月に市民団体として活動を開始し、2020年5月に法人化。生まれつき重度の聴覚障害を持つ那須かおりさんと、手話通訳士の津金愛佳さん、茅ヶ崎の手話サークルで出会った二人が志を共に立ち上げた一般社団法人4Hearts。「聴覚障害者の生きづらさ」から始まった活動は、やがて「まちづくり」へと深化し、“スローコミュニケーション”の構想が誕生しました。約2年に及ぶ活動の中で、二人が体験した変化、今思うこととは？ 那須さん、津金さんに話を聞きました。

## 「地域とともに」をキーワードに

—— 2020年5月に法人化されて、もうすぐ丸2年になりますね。改めて、4Heartsとはどんな団体でしょうか？

**那須**：聴覚障害は「情報・コミュニケーション障害」と言われています。きこえないから情報が入らず、判断ができない。判断ができないから、行動が起こせない。情報が欲しい。人と繋がりたい。でも、繋がるためには筆談などプラスのモノが必要で、それは煩わしいのでは……と遠慮や負い目を感じて、繋がることを諦める。そこをなんとかしようよっていうのが、私たちの考えです。

**津金**：今までって、当事者団体やその支援者が、そこだけで集まって社会に要望していく、という形が多かったんですね。でも私たちは、地域も巻き込んで、地域から変えていこうとしている。そこが特徴だと思います。

—— 2022年度から始まる大学との共同研究などもそうですね。

**津金**：きこえない人と出会ったことがなかった、という人たちが、那須を通して聴覚障害の人とのコミュニケーション方法を知ったり、彼らの困りごとに気付いたり。この二年間で、新たな発見をしていたように思います。もちろん、最初は「助けてあげたい」という気持ちだったかもしれませんが、でも今は、「一緒にワクワクしよう！」という方向にみんなのマインドが変化していると感じます。

## スローコミュニケーションは“環境”づくり

—— 新たに掲げた“スローコミュニケーション”（以下、スロコミュ）について教えてください。

**那須**：（当事者である）私が、負い目を感じずに社会に出ていくには？と考えた時、この二年間の経験から、二つのことが浮かびました。まずは、私自身の「一歩踏み出せる勇気」。きこえる人たちとの協働の中で、「申し訳ない」という負い目の感情が自分の根底にあることに気付いて。きこえなかったけど申し訳なくてき返せない、迷惑かもと思って要望できない……相手は対等に接してくれているのに、当事者自身が自分を下げてしまうんです。それは違うなって思い始めて。もう一つは、周囲が醸す「言い出せる空気感」。「受け入れてますよ」と示してくれる——いわゆる、否定しない／されない環境だと思いました。「環境」を作り、「勇気」を引き出すのがスロコミュです。

**津金**：スロコミュは、“マインド”の話なんです。指差しメニューや筆談ボードといったツールの導入ももちろん必要ですが、それはあくまでツール。それを用いてどうするか？究極、ジェスチャーでもなんでもいいですよ！対応します！というマインドというか、心のゆとり。コミュニケーションの選択肢を知っているだけでも、ちょっと気持ちにゆとりが持てるのではないのでしょうか？

**那須**：職場でも街中でも、ツールを配置して終わり、という例は多いです。でも、ハード面＝「ツール」だけではなく、ソフト面＝「マインド」も重要。だから今、マインド部分の研修カリキュラムも作っています。「気づきスイッチ」を押す研修というのかな。あらゆる障害を持つ人にアンテナが立つような……そんな内容を考えています。最近、私って地ならしをする役割なのかもと感じていて。



なす  
● 那須 かおり

生まれつき重度の聴覚障害を持ち、手話と口話を使い分ける。大手電機メーカーに勤務後、職場環境における聴覚障害者の環境改善やメンタルケアの必要性を実感し、退職。2020年には、産業カウンセラーの資格を取得。4Hearts代表として、大学との共同研究開発、小学校での講演などを行い、スローコミュニケーション推進に努める。



つがね あいか  
● 津金 愛佳

手話通訳士。幼い頃から教会が身近にあり、多様な人と接する環境で育つ。友人の子が聴覚障害だったことから手話を始め、その中で聴覚障害者と出会い、手話通訳を志すことに。通訳の仕事を通じ、聴覚障害者の社会的・現実的な課題を目の当たりにし、メンタルサポートとして、気軽に愚痴をこぼしに来られるカフェを開くことを目標に、4Heartsでの活動を開始した。

—— “地ならし”ですか。

**那須**：聴覚障害者は、欠格条項による職業制限があるんです。私も、本当は医者や獣医になりたかったんですが、当時は認められていなくて。小さい頃から、いろんなことを諦めてきたんですね。それが染みついている、今更やりたいことなんて言いにくい。でも、その制限は徐々に緩和されてきていて、今の大学生くらいが、職業の幅を広げている世代です。スロコミュは、これからの彼らが、やりたいことを言い出せる、その土台になるものでもあるんです。

**津金**：聴覚障害者が臆することなく言いたいことを言える、やりたいことができる。みんなが、それを受け入れる心のゆとりを持っているまち。そんなまちにしていきたいよね。これって、茅ヶ崎だからできるとも思っています。

## ほんの少しの“気付き”が人を生かす

—— 今後の構想をお聞かせください。

**那須**：一つは、子ども事業を考えています。学校講演などを通じて子どものうちからスロコミュを伝えていく必要性を感じています。

**津金**：日本は、養護学校や特別支援学級があって、小さい頃から分けられた育ち方をしているから、きこえない人との接し方を知らないのも無理はない……。就職してから、障害者採用で入ったきこえない人と初めて会ったという人もいます。社会を変えるには、子どもの頃から、「みんないるのが当たり前」にする必要があるのかなって。

**那須**：津金の子ども頃、教会の環境みたいなものだよ。

**津金**：そう。改めて私たちは、「障害者支援」ではなく、「まちづくり」をしていくんだってこと。みんな、臆することなく声を掛けて、訊いてほしいよね。知らないから遠目に見るだけとか、これって失礼かな？と迷って話せないとか……そうじゃなくて、まずは興味を持って、知ってほしい。

**那須**：まちの人が、ちょっと気付くだけで生きやすくなる人たちがいる。そのことを忘れないで……というか、気付いてほしいと思う。そのほんの少しで、ここにいていいんだ、僕も/私も一員なんだと思える。魚屋のおじさんや、八百屋のおばさんと「今日はこれが美味しいよ」「どう調理したらいい？」といった他愛もない会話に憧れます。私もできるようにしたいんです。そういうことって人を生かすから。聴覚障害があってもなくても、誰だってそんな会話が自然とできたらほっこりしますよね！そんなまちを、私たちと一緒に作っていきませんか？



肩を組み、笑顔で“OK”を作るしぐさは「みんな一緒に」「誰もが歓迎されるまちづくり」のメッセージを込めました。tomioさんのイラストで、緊張した心をほぐす温もりあるトレードマークに仕上がっています。

# Information

## ● 一般社団法人4Heartsとは

4Heartsは、きこえない・きこえにくい人たちの「伝えたい」が歓迎される社会を目指します。社会的ハンディキャップや心の問題といったさまざまな社会課題を多くの人と共有し、地域や社会と共に解決していきます。聴覚障害は「情報・コミュニケーション障害」と言われます。SNSやテクノロジーが発展し、音のハンデをカバーする方法や技術はたくさん出てきていますが、きこえの度合いや育った環境などによりそれぞれが抱える問題は異なり、一括りに解決策を提示することはできません。だからこそ、当事者の一人ひとりが、自分たちのことを言語化し社会に発信することが必要です。

代表を務める那須かおりも、生まれつき重度の聴覚障害を持ちます。筆談に負い目を感じたり、場を壊したくなくてわかったフリをしてしまったり。情報が得られないことは、判断ができず行動が起こせません。それは、夢を諦めることにも繋がってしまいます。

地域や周囲の人にとっては、きこえない・きこえにくい人が身近でないためにどう対応したら良いかわからなかったり、ジブンゴトにならなかったりします。

こういった双方のマインドをシフトしていくことで、誰もが相手に寄り添い、心のつながりを大切にしたい対話を通じて関係性を構築することができるようになって考えています。



## ● 法人概要

法人名：一般社団法人4Hearts（フォーハーツ）

代表者：代表理事 那須 かおり

住所：〒253-0072

神奈川県茅ヶ崎市今宿965番地1

公式サイト 4hearts.net  
みみところのポータルサイト

<https://4hearts.net>



Facebookページ

<https://www.fb.com/gia4hearts>

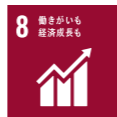


## ● 4Heartsの取り組み

聴覚障害者とその周囲の人にも健康と福祉を



聴覚障害者ひとりひとりの可能性を引き出す活用を



法制度だけでなく人々の意識にも温かい広がり



聴覚障害者が社会参画できるまちづくりを



行政や企業、地域コミュニティとの連携で社会課題解決を



## ● 賛助会員・寄付募集

4Heartsでは、活動を支援して下さるパートナーを募集しています。頂いた会費は、下記などに使わせていただきます。

- ・記事製作費（ライティング、撮影、編集、デザイン等）
- ・取材先への交通費 ・サイト維持費
- ・イベント開催時の情報保障費（手話通訳・要約筆記等）

### パートナーのみなさまへのお礼

- ・4Heartsオンラインコミュニティ『スローコミュニケーションプロジェクト』へのご招待
  - ・パートナー限定の特別イベントへのご招待
  - ・パートナー限定の活動レポートやお知らせ、会員限定コンテンツを月1回配信します。
- ※誰もが入会できますが、クローズドなコミュニティです。

[ 銀行口座へのお振り込み ]  
お振り込み先

銀行：横浜銀行茅ヶ崎支店（631）

口座：普通6303550

名義：一般社団法人4Hearts 代表理事 那須かおり



### 4Heartsパートナー（個人）

月額

1,000円（毎月自動更新）

年間一括

12,000円（毎年自動更新）

### 法人パートナー

月額

3,000円（毎月自動更新）

年間一括

36,000円（毎年自動更新）

※単発のご寄付も歓迎しております。

## ● 聴覚障害者を雇用もしくは雇用を検討されている企業の皆様へ〈研修のご案内〉

障害者採用において、採用過程や入社後の接し方・留意点に悩まれる企業様に向けて研修サポートを実施しています。

4Heartsの研修では、音声認識や筆談・コミュニケーションボードといった補助ツールの導入にとどまらず、それを使う従業員や当事者のマインドを変えていくことに軸足を置いています。まずは聴覚障害体験を通して、アンコンシャスバイアス（無意識の思い込み）に気付くことから始め、企業内外のコミュニケーションの質を高める研修を行なっていきます。

4Heartsでは、以下のことを提供できます。

- ・聴覚障害体験イベント、聴覚障害への理解を深める講演やワークショップ
- ・聴覚障害者の就労現場の受け入れ準備サポート
- ・入社後サポート：産業カウンセラーによる心理サポート

企業様の状況をお伺いしながら、当事者との相互発展を目指すお手伝いをしたいと考えています。お気軽にお問合せください。

## ● 飲食店、窓口業務等 BtoCサービス提供企業の皆様へ

指差しメニューの導入や、きこえない・きこえにくい方に対する接客研修、店舗オペレーション改善といった、法人研修・業務改善提案を実施しています。

## ● 講演会・取材のお問い合わせ

4Hearts代表の那須かおりによる、聴覚障害への理解を深める講演（小学校での実績あり）やセミナー・ワークショップを実施しています。

導入をご検討の際は、右記よりお問い合わせください。✉ [info@4hearts.net](mailto:info@4hearts.net)

【発行】2022.4

企画：那須かおり、津金愛佳、渡部健 / 構成・テキスト：森岡悠翔 / デザイン：株式会社ポンド / イラスト：tomio  
コピー（スローコミュニケーション）：池田美砂子 / 撮影（つちや商店）：岩井田優